



写真左は、国立臺南護理專科學校の学長室で学長の黄美智教授と再会を喜ぶ筆者。同中と同右は、OSCEセンターの講義室と試験個室



台南編

川口辰哉

## 国立臺南護理專科學校のユニークな教育

### 充実したシステムに目を見張る

台湾3日目は、朝から台湾高速鉄道で国土を縦断し、約2時間で台南に到着した。台南は、17世紀のオランダ統治時代から19世紀末までの清朝統治時代に、台湾の政治・文化の中心として栄えた古都(首府)であり、赤崁楼(せきかんろう)など当時の面影を色濃く残す建物が多く残されている。この日は予定がなく、昼食がてら市内を散策し、台湾の小京都とも呼ばれる、この趣のある街並みを堪能することができた。

さらに今回、どうしても訪ねたい場所があり、国立台南女子高級中学(日本統治下の旧制台南第一高等女学校)までタクシーを飛ばした。亡き母の母校である。幼い頃より台湾の話は聞かされていたが、実際に、母が通ったであろう古い煉瓦造りの校舎を目の当たりにし、往時を偲ぶことができた。

台湾4日目は、いよいよ大学訪問である。そのきっかけは、2025年7月に熊本市で開催された2025 Japan-Taiwan University Presidents' Forumでの2校の学長、副学長との名刺交換であり、それぞれ今回の私の申し出を快く受け入れてくれた。

まず午前中に、台南市の「国立臺南護理專科學校(National Taiwan Junior College of Nursing: NTIN)」を訪問した。学長の黄美智(Mei-Chih Huang)教授が出迎えてくれて、夏以来の再会を喜んだ。NTINの歴史や大学の概要を説明いただいた後に、学内を案内してもらった。

NTINは3つの学科(看護学科、応用化粧品学、高齢者福祉学科)から構成され、それぞれユニークな教育・研究活動を行っていた。特に看護学科ではOSCE教育に力を入れており、臨床技能中心(OSCEセンター)の施設の充実ぶりには目を見張るものがあった。試験用の個室は、10室程度が同時に稼働でき、全ての部屋はモニターとマイクで中央制御室とつながっており、教員は中央制御室から学生の手技を観察し、マイクを通じて学生とやり取りするシステムになっていた。教員が学生の横について評価する必要がないため、学生は緊張せずに実力を発揮できるであろう。なんとも羨ましいシステムであった。学内見学の後は、スタッフの皆さんと昼食会を催していただき、台南伝統料理に舌鼓を打つことができた。(副学長、医学検査学科教授)



学内見学後の昼食会では、スタッフの皆さんと台南伝統料理を堪能しました

## 緊張の受験生 九州7会場で一般選抜

学部の令和8年度一般選抜(一般)を4日(水)に実施しました。

本学(熊本)、福岡、長崎、大分、宮崎、鹿児島、那覇の7カ所に試験会場を設け、九州各地から多くの受験生が集まりました。各会場では、緊張した面持ちで参考書を手に持つ受験生、

それを見送る保護者など、いつもながらの受験風景が見られました。当日は各地とも天気恵まれ、大きなトラブルもなく無事終了しました。合格発表は18日(水)で、一般選抜(共通テスト利用・前期)と併せて発表します。

(入試・広報課)



写真上は、探求学習の成果を発表する阿蘇中央高の生徒たち。同下は、本学教員から予防活動に関する指導を受ける参加者たち



「阿蘇プロジェクト」の成果報告会を1月20日（火）、阿蘇市一の宮保健センターで開催し、測定会に参加した住民を前に、阿蘇中央高校の生徒による成果発表や本学教員による2回の測定結果を踏まえたフィードバックを実施しました。

報告会前半では、同校生徒が、阿蘇プロジェクトを通して学んだことをまとめたうえで、高齢者の健康増進のための運動メニュー提案や、栄養素を考慮した1週間の献立の立案について発表しました。

後半では、リハビリテーション学科3専攻の教員による、測定会1回目（6月）と2回目（11月）の結果を比較したフィードバックが行われました。宮崎宣丞助教（理学療法学専攻）は、歩く速さや握力などの「運動」の結果について説明し、健康寿命延伸の取り組み例として阿蘇市介護予防体操を紹介しました。宮田浩紀講師（作業療法学専攻）は、「社会参加」の結果による現状把握を基に、フレイル予防や認知機能向上の重要性について説明。言語聴覚学専攻からのフィードバックでは、本プロジェクトのリーダーを務める松原慶吾准教授が「栄養(食事)」の結果に関して説明し、口腔体操などの予防活動を継続する意義について話しました。

フィードバックの後には測定会参加者（20人）からの相談の時間を専攻毎に設けました。日常の悩み事に関する相談を受けるとともに、簡単に楽しく行える予防活動を高校生も含めた参加者全員に体験してもらうなど、活発な交流が繰り広げられました。（健康・スポーツ教育研究センター 中村祐貴）

## 春日クリニックと連携「PEACE Project」 看護学科生 貴重な現場体験の場に

本学は、昨年度より熊本市西区春日にある春日クリニックと連携し、「PEACE Project」と銘打った取り組みを進めています。地域における医療・介護・保健・福祉に関する様々な課題に対する解決策の検討や相互の人材育成等、テーマに応じた協働活動を展開し、地域医療・介護・福祉、教育面での相互の発展に寄与することが目的です。

主な活動は、春日クリニックや関連施設でのボランティア。地域包括ケアシステムの深化・推進が強化される中、これからの医療を担う学生には、これまで以上に「生活者の視点」を身につけ、多様な価値観に触れながら、人への関心や対象者を理解する力を身につけることが求められています。現在、看護学科の1～2年次生50人ほどが参加し、学外実習以外で現場体験ができる貴重な機会となっています。

1月29日（木）には、1年間の活動の振り返りと労いを兼ねた茶話会が開かれ、10人の学生が参加

しました。会場に入るなり、テーブルに並べられたピザやサンドイッチを見て、顔をほころばせる学生たち。食事を楽しみつつ活動の感想を聞かれた際には、「実習では経験できない患者様の髪の毛のドライヤー掛けを担当し、貴重な経験だった」「ベッドメイキングが学んだものと違い、戸惑ったが、病院ごとにやり方が違うことがわかった」「患者様からニュースの話題を振られたことで、専門知識だけでなく新聞などを見ておくことの大切さを知った」など、ボランティアで得た知識や経験を全員で共有していました。

(NL編集部)



ボランティアで得た経験を話し合う学生と担当教員

米国短期留学オリエンテーションが1月29日（木）、1201講義室Sであり、今年度留学予定の学生13人がベネッセキャリア担当者から留学プログラムの詳細や今後の手続き、出発準備などについての説明を受けました。

学生たちは、2月21日（土）～3月22日（日）までの4週間、米国に滞在。この間、ホームステイをしながら全米最大の留学生受け入れ機関ELSLanguageCentersのヒューストン校で、平日午前中は英語の授業、午後には世界最大の医療センター訪問などさまざまなアクティビティを体験します。留学費用の半額程度を奨学金として本学が補助します。

(NL編集部)

週間行事予定（2月9日～2月16日）	
2/9（月）	修士学位論文公開発表会（院） 【オンライン】キャリア教育セミナー（看護学科）
2/12（木）	就勝ガイダンス（医学検査学科） 国家試験（助産師）
2/13（金）	国家試験（保健師）
2/13（金）・16（月）	職種紹介（医学検査学科）
2/15（日）	国家試験（看護師）